

リレー随想(13)

松本深志高校の魅力と将来性

深志第7回卒 同窓会会長 中嶋 嶺雄 (国際社会学者)



松本市は先年市制百周年を迎え、松本深志高校は創立百三十周年を祝賀した。百年とか百三十年という時間の流れは、自らもその一部に参与している同時代史の構成を多彩なドラマの断章として綴ってくれる。それぞれの当時に撮った黄ばんだ写真を原点に、現在までの姿を重ねてみると、明治、大正、昭和、平成と様々な時代相が蘇ってくる。そうしたなかで、深志の古い前身としての変則中学校や新制61回を迎えた今日の松本深志高校よりも長期に亘る旧制松本中学校から現在の深志高校に至る歴史と現在が同時に透視できよう。

そこに共通しているのは、北アルプスや美ヶ原に囲まれた松本平の美しい自然と国宝松本城を中核とする風景なのだが、その自然や風景がとかく人工的に改良されたり保護されようとしている今日の姿は、いささか物悲しい。地方はありのままの地方であってこそ世界につながる発信力をもつのだと私は思う。ヨーロッパの個性的な地方都市がそうであるように、グローバル化の急激な進展にそなえて、わが郷土・松本は、これから本格化する地方の時代の確固たる知的根拠地になってほしいし、

わが母校・松本深志高校は、そのような根拠地を支える知の集積基地であってほしい。

1955(昭和30)年に深志第7回生として卒業した私にとっての深志高校の魅力は、自由な校風のなかでの勉学ばかりか、部活動、クラブ活動に青春を燃やしたことであった。歴史を誇る松中・深志山岳部の一員であった私は、また同時に高校時代からフランス語を学ぶ生徒として、忘れがたい高校生活を送った。最近もフランス語教育に伝統のある東京の暁星高校出身者が多く出席しているパーティで挨拶する機会があったので、いささか堅苦しかったその場の雰囲気や和らげたいとの気持もあって、あえて久しぶりのフランス語で、「私は今から半世紀以上も前に松本の深志高校でフランス語を学びました。ゴーロア協会(L' Association Gauloise)というフランス文化を学ぶ会合サークルもつくりました。そ

の頃、東京の暁星高校は私たちの憧れの的でした」とお話しした。そこには中国研究者としての私の中国語でのスピーチを聞かされている女性評論家もおられ、今私が学長をしている秋田の国際教養大学は授業も会議もすべて英語でおこなわれているユニークな大学で、全国から優秀な学生が集まっていることについてもすでに紹介されていたので、当時の松本深志高校が英語以外にドイツ語とフランス語を正課として教えていたことなどは知らない出席者の方々からは、私と英語や中国語ならいざ知らず、私とフランス語という組み合わせの意外性もあったのであろう、大きな拍手喝采を頂戴した次第である。

クラブ活動といえば、音楽部の正式なメンバーではなかったが、小学生のころから松本音楽院(才能教育研究会の前身)で鈴木鎮一先生にヴァイオリンを習っていた私は、高校生の頃もよくヴァイオリンを弾いた。そのご縁で2006年10月7日、



平成21年4月3日(金)入学式にて御挨拶をされる中嶋嶺雄同窓会会長

輝け！ 青春！ 飛び出せ青春！

柔道部 (小山 航太)

深志の柔道部は歴史と伝統のある部活です。現在は風前の灯とも言われていますが、なんとかがんばっていきたいです。よろしくお願いします。

女子バスケットボール部

(内山 志織)

1年3人、2年5人という少ない人数ですが、中信3位を目指して頑張りたいと思います。

男子バレーボール部

(各務 貴郁)

僕たち男子バレーボール部は、新人戦でベスト8を目指し日々努力しています。目標達成できるよう頑張ります。

女子バレーボール部

(山田 奈穂)

少人数だからこそ、明るく、楽しく、顧問・歴史男Tのもとで、技術と(ギャグ)センスを磨きます!!

卓球部 (松島 祥晃)

一、諦めないこと。 一、何事に於いても、全力で取り組むこと。
一、己に勝つこと。 以上



ダブルダッチ部 (小木曾 理)

とんぼ祭が終了したら基礎練習の夏休みがやってきます。その後は校内のみならず校外でのイベントや大会にも出場していく予定です。

男子バスケットボール部

(野池 貫志)

バスケットだけでなく、精神面でも成長できるように全員で一分一秒に全力を尽くしていきたくです。



山岳部 (小山 航太)

せっかく長野県に生まれ育ったので日本の屋根を登りつくしてやりたいと思います。部員みんなで力をあわせてがんばります。

バドミントン部 (岩淵 匠平)

今年の中信のレベルは去年よりだいぶ下がっています。このチャンスを逃すことなく、県大会へ出場したいです。



フットサル部 (中野 直輝)

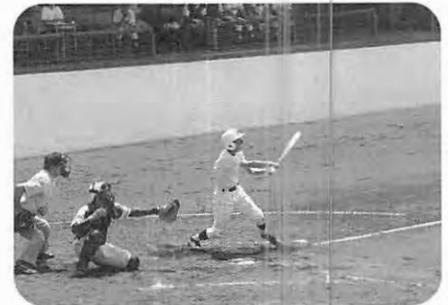
学年の壁を越えて、仲良く・楽しく活動し、それでいてメリハリのある練習をしていきたい。

声よ天まで届け！



野球部 (守法 友貴)

最後の夏の大会に向けて一人一人が一丸となり悔いのない試合ができるよう精一杯頑張りたいです。



陸上競技部 (長崎 仁徳)

県大会、そして北信越でも通用するような強い深志陸上部を目指して日々練習に励んでいきます。





講堂正面風景

ation)のように、母校としっかり連携した知的支援機能をもつものになってほしいと考えている。その延長線上で、これからのグローバル化の時代に国際的に活躍する多くの人材が母校・松本深志高校から輩出し、英語をはじめとする外国語のコミュニケーション能力をしっかりと身につけて、日本の将来を力強く担ってほしいと願っている。



校長室にて談笑(左から2人目が中嶋会長)

長野県松本深志高等学校創立百三十周年記念式典が催された際には、その歴史も水準も高校生レベルとしては際立っていると思われる深志高校音楽部が、音楽部現役生とともにOB・OGが多数参加する「志音会」の記念演奏会に出演し、10月22日に松本市音楽文化ホール(島内)でコンサートが催された。合唱団とオーケストラで総勢200人前後が出演するモーツァルトの「戴冠ミサ」が主なプログラムで、オーケストラの方は才能教育研究会指導者で松本室内楽団などを率いるヴァイオリンの名手・牛山正博君(深志23回卒)をコンサートマスターに、過去一年間練習に励んだのであった。私も多忙な日程を縫って第一ヴァイオリンのパートに勤務地の秋田から時々参加した。そのとき私の隣でヴァイオリンを弾いた現役生のT君は1年生でまだ16歳とのこと。私とは55歳も隔たりがあった現役とOBが「戴冠ミサ」という大曲を一緒に演奏できるのも、深志高校ならでのことと感激した次第である。

私と深志高校とのつながりといえば、深志名物のとんぼ祭に招かれて講演したことも二回あった。第一回の講演はもう三十年以上も前になるが、そのときの生徒の一人が東京外

国語大学時代の私のゼミ生となり、現在は京都産業大学でロシア専門の教授として活躍している。二回目は二十年ほど前だったと思うが、やはりそのときの生徒の一人が偶然私の現在の大学の教員募集に応募し、現在は準教授としてアメリカ外交を担当している。

このようにわが母校・松本深志高校はいまも私の日常のなかに活きている。その母校の同窓会長に就任したことは大変光栄なことであり、重い責任も感じているが、同窓会がかく年配者の親睦団体になりがちだという通例を超えて、アメリカの高校や大学の同窓会(alumni associ

<略歴>

公立大学法人 国際教養大学理事長・学長。松本深志高校同窓会長、社団法人才能教育研究会会長。

1936年、松本市生まれ。深志第7回卒業生。東京大大学院修了・社会学博士。東京外国語大学学長などを経て現職。専門は国際関係論・現代中国学・アジア地域研究。著書に『現代中国論』『北京烈烈』『国際関係論』『21世紀の大学』など。



深志百年館清掃(前列中央が穂苅甲子男前同窓会会長)



— 親とんぼのつぶやき —



感性（視野）

1年生 奥田 孝

高校生活も3ヶ月が過ぎ夫々のライフを謳歌している事と思いますがこれからの3年は長いようで短かつ、人生においての人格形成を最大に育てる期間になると思います。人間には与えられた環境の中に人生の選択肢がありますが継時とともにその選択肢（角度）は狭まってゆきます。少なくとも深志生は中学時代の最高の目標を勝ち取った人たちのはずです。今は全員が360°の視野をもっていますが視野を狭めてしまうのは自分自身に尽きます。与えられた可能性を最大に活用し次のステップにも360°に近い視野を維持できるように努力して欲しいと思います。

最近 職場と家庭での説法が似たものが増えてきている事に気づいた。学生でも社会人でもPDC Aの循環活用は変わりなく、これを徹底実践できる人は何をやっても大成します。それには努力と感性が必要で感性（センス）は努力を重ねれば向上します。この3年間で自身の個性を正しく認識し感性を磨く事を切望します。『感性の豊かな人間は出来る・出来る人間は感性が豊か』。先日息子が『エンジン深志ます』と書かれたTシャツを持って帰ってきたがくれぐれも『カラ吹かし』『負荷しすぎ』にならないように・・・

「ツールたち」と彼

2年生 父

「あと、3センチ」、我が家の壁に貼られた紙製の身長測定器は、それなりに正確だ。息子は、1ヶ月に一回以上はこれで、背の伸び具合を確かめる。せめて、170センチ！気持ちちはよく分かる。

この頃、彼は部屋の隅でシャドーピッチング（球を投げるマネ）をする。その姿やしぐさがやはり、当時、同じことをしていた私にあまりに似ていてハッとさせられる。

しかし、大きく違うところがある。

彼の身の回りには、ケータイ、アイポッド、共用ではあるが、ハイビジョンテレビ、パソコン、ゲーム機等々。特にケータイは、最強（最怖）のツールである。

彼を見ていると、それらが彼を蝕んでいくのではないかという不安にかられることがある。

これらの便利で楽しいツールと彼との関係が、使用する者が彼であり、コントロールされるものがツールたちであることを願うのみである。

親ができること……。

ふだんの会話の中にさりげなく助言的メッセージを入れる。思春期の彼はプライドも十分あるのだ。

その一言をどれくらい両親が考えたか、彼は知るよしもないだろう。21世紀の親は知恵と工夫がいる。

夏休みに寄せて

3年生 母

この時期になると、思い出し紹介する詩です。

友は海に行くという／友は山に行くという／ぼくだって、そりゃ行きたいけれど／ぼくにはぼくの夏休みがある／ぼくは毎日、おばあちゃんのスケッチをするのだ／このごろ、すっかり弱りこんだおばあちゃんが／しんみりぼくにつぶやいたのだ／—おばあちゃんね／—お前におばあちゃんの絵を描いてもらいたいんだよ／—そして死んだら祭壇に飾ってほしいんだよ(中略)

デパートや盛り場をふらついて／空しく過ごした去年の夏休み／ぼくが補導されたとき／「生きた証になるような休みにしないといけないよ」／静かに一言いって／目に一杯涙をためていたおばあちゃん／いつの日か／祭壇の真ん中で／今年のぼくの夏休みに／満足そうにほほえんでいる／そんなおばあちゃんの最高の傑作を／ぼくは描かなければいけないんだ

確か『ぼくの夏休み』という題でずっと昔に紹介されて知った作品です。この夏、高三の夏休みを迎える我が子。そして、私。

それぞれの最高傑作は何なのか？結論は出ないのだろうが、心して過ごしたい日々です。



62nd とんぼ祭

PTA会報



深志

(題字：弘法大師空海)

発行 松本深志高等学校
PTA
編集 編集委員会
印刷 南穂高総合印刷

皆さんの声を形に



平成21年度深志高校PTA会長
山岸 淳一郎

去る5月30日、曇り空ながら時々5月の薄陽の差す中、多数の会員の皆様にお集まりいただき、「平成21年度松本深志高校PTA総会」が行われ、新年度のPTA活動がスタートいたしました。当日は、午前中からPTA評議員会、授業参観が行われ、昼食をはさんで総会、学年総会、さらに学級PTA、夕方からは梅風閣へ場所を移して歓送迎会・懇親会と続き、出席いただいた皆様には大変お疲れ様でした。

松本深志高校PTAでは、主な活動として、平成16年度より(1)編集委員会、(2)研修委員会、(3)調査統計委員会の三委員会が置かれ、(1)年三回の会報「深志」の編集・発行、(2)尚学塾・特別講義への参加、長野・上田高校との「三校交流会」への参加、(3)アンケートによる会員の

意識調査等を行ってまいりました。また、引き続き地区PTAでの懇談会の推進も図ってまいりたいと存じます。

また、総会でも承認いただきましたが、本年度は冷房装置の設置について、導入の是非等を検討する委員会を理事会内に置くことといたしました。昨今の温暖化に対し、教育環境の改善を願って、本校でも冷房装置を設置してはどうかという声が大きくなりつつあり、昨年度実施したPTAアンケートでも6割の方が導入に賛成されています。しかし、冷房を導入した他校の事例でも、PTAでの費用の負担が不可欠となっており、種々検討を必要とする課題です。「自治」を重んじる深志高校の伝統精神から、生徒諸君の意見も聞いてみるべき、との声も聞かれます。2年くらいかけ、じっくり検討を進めたいと考えています。会員の皆様には、今後ともご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◆プロフィール◆

深志25回卒。昭和30年松本市中山生まれ。妻と長男(高3)長女(高2)の4人家族。中山小学校PTA会長、松本市PTA連合会会長を歴任。



やる気満々の新役員さん達です。乞うご期待!

第22号掲載内容

PTAから

- 皆さんの声を形に
PTA会長 山岸淳一郎 P1
- PTA総会記録
評議員会議長 池上 敦子 P2
- 各委員会から一言
編集委員長 金井 亮一 P2
研修委員長 飯沼 新吾 P2
調査統計副委員長 勝家 明子 P2

学校だより

- 基となるもの
学校長 高橋 康人 P3
- 「尚学塾」について
教頭 五味千万人 P3
- 1学年より
学年主任 小野 純生 P4
- 2学年より
学年主任 藤沢 良治 P4
- 3学年より
学年主任 中野 方文 P4
- 進路指導室より
進路指導主事 福田 敏朗 P5
- 生徒部より
生徒部長 青柳 俊幸 P5

深志トピックス

- 卒業生に聞く
京都大学医学部入学 風間 亮 P6
東京大学文科Ⅲ類入学 小野 聡子 P6
- 職員紹介 P7~P9
- 部活動報告 P10~P11

リレー随想

- 松本深志高校の魅力と将来性
中嶋 嶺雄 P12~P13

親とんぼのつぶやき

- 1・2・3学年父母より P14

学校行事

- 卒業式保護者代表謝辞
跡部まり子 P15
- 入学式保護者代表謝辞
金井 亮一 P15
- 入学式・卒業式の風景 P16
- 編集後記 P16

PTA総会記録 ～手を携えて～

2009年5月30日 講堂
評議員会議長 池上 敦子

PTA総会が、時折小雨の降る中、326名の出席と481名の委任を得て成立し、行われました。午前中は参観を含めた一般公開となっているため、保護者だけでなく来春入学を目指す中学生の姿も見られました。総会の開会に先立ち吹奏楽部の演奏と定期演奏会の案内が行われ、和やかでさわやかな雰囲気の中、開会が宣言されました。

田中会長の挨拶の中で会長自身が当日の朝目撃した自転車と車の接触事故について話され、いま一度家庭でしっかり交通安全について話し合う必要があると話されました。また高橋校長先生から新型インフルエン

ザ対応に苦心をされている学校の様子を伺い、生徒の安全確保に今まで以上に学校と家庭が手を携える必要を感じました。

議事は平成20年度の事業報告及び決算報告に続き21年度の役員が評議員会選出案で承認され、引き続き21年度の事業計画案、予算案が提出され承認されました。会員から繰越金について多すぎるのではないかという意見が出されましたが、小林事務長より年度当初集金が間に合わないうちでの支出があることから必要な繰越しであるという説明がありました。また、山岸新会長より冷房装置設置についての提案があり、必要性

や方式、予算等が今年度より理事会で検討されることが承認されました。続いて、学校側から進路指導部より2009年度の入試結果についてまた生徒部より生活全般について近況報告がされました。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



大勢の方に集まって頂きました。

“手にとって読みたい”



編集委員会 委員長
金井 亮一

初仕事である夏号を無事お届けすることができました。お読み頂きありがとうございます。

エコやITが当たり前の今日、紙に印刷してお届けする会報はどうあるべきか？うーん、難問です。私の答えは、“ちょっと手にとって読みたいくなる”会報。また、どなたにお読み頂くのか？“当然PTA会員様。でも、できれば子供たちも目を通して欲しい。”そんな思いで、委員皆で和気あいあい、楽しく知恵を絞って企画していこうと思っています。

今回は、昨年好評の職員紹介の他に、卒業生インタビューや部活動紹介を取入れながら、よりビジュアルにしてみました。「少し変わったかな」と感じて頂ければ幸いです。

編集委員全員、そして何よりお忙しい中寄稿頂く方々のお気持ちが伝わる会報となるよう努めて参ります。何卒宜しくお願いいたします。

研修委員会の活動について



研修委員会 委員長
飯沼 新吾

研修委員会の活動は、例年通り尚学塾の共催と三校交流会の運営が柱となります。

今年の尚学塾は10月3日を深志11回生、11月14日を31回生が担当されます。毎年各回10ぐらいの特別講座が企画され、在校生が様々な分野で活躍されている諸先輩から生のお話を聞き、自身の将来を手探りする、とてもよい機会となっています。基本的には在校生向けですが、PTAの皆様が聞かれても、十分に興味深く、楽しめる内容となっておりますので、ご興味のある方は聴講されてはいかがでしょうか。

また今年の三校交流会は上田高校の主催で11月6日に予定されています。上田高校は、同窓会の周年記念事業により今年から全教室エアコン完備だそうですので、その様子を見聞きしていきたいと存じます。

何分不慣れで力不足ではありますが、1年間宜しくお願い致します。

ご意見を求めて！



調査統計委員会
副委員長
勝家 明子

調査統計委員会は、細則に謳われているように「学校の教育及びPTA活動の改善のための各種調査統計を実施する」ことです。本年度も会員各位に調査用紙を配布し、ご回答いただいた用紙を回収し、整理をした後本紙面にてご報告いたします。

調査内容は、本年度の定期総会の議事でありました『冷房装置の設置について』です。調査方法は、お子様を通じてアンケート用紙を配布・回収させていただきます。

会員各位には御手数をお掛けすることになりますが、本委員会の目的をご理解いただき率直なご意見をお寄せください。尚、アンケートの内容以外においてもお気づきの点や問題点がありましたら是非お願いいたします。

会員各位には更なるご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。